

2018年1月31日

# 資料館通信 第72号

ふじみ野市立 上福岡歴史民俗資料館 埼玉県ふじみ野市長宮1-2-11 TEL 049-261-6065  
大井郷土資料館 埼玉県ふじみ野市大井中央2-19-5 TEL 049-263-3111

## 大井郷土資料館特別展「幕末の川越藩とふじみ野 —激動する村々と舟運・街道—」を開催しました

(平成29年10月24日～12月10日)

平成29(2017)年は、幕末の慶応3(1868)年の大政奉還から150周年にあたります。近代日本の出発点になった明治維新はここから始まりますが、その前史としての幕末動乱期も、大政奉還・明治維新の意味を明らかにするために着目する必要があります。

今回の展示は、19世紀中頃の黒船来航を一つの契機に、国内・国外ともに動乱に直面した幕末の日本人、当時は川越藩領であったふじみ野市域の人々がどのように生きてきたのかという面に光を当てるものです。一般的に、幕末・明治維新については、歴史小説や大河ドラマに登場する坂本竜馬・西郷隆盛・高杉晋作や勝海舟、近藤勇率いる新撰組の姿が連想されます。彼らは若く、必ずしも大名や貴族などの高い社会的地位の出身ではありませんでしたが、ある時は自己の才覚で、ある時はチャンスを確実に活かして新しい社会への原動力になりました。

ふじみ野市域を含む川越藩領内では著名な人物は現れませんでした。多くの人々が激動する社会情勢の中で、歴史上の著名な人物たちと江戸や京都などを舞台に、同じ歴史的な出来事に出会いました。中には早船屋の船頭吉野吉五郎のように江戸湾警固を担当した川越藩の御用荷物の運搬を通して台頭してきた人物もいれば、大井宿本陣の新井代助のように川越藩の村々への支配を苦労しながら任されていた村役人たちもいました。彼らの目には幕末・明治維新の激動する歴史の流れはどのように映ったのでしょうか。市内には当時の記録が多く残されており、黒船来航はもちろんのこと、長州藩や水戸藩の尊皇攘夷運動、それに伴う事件や戦闘から官軍の江戸無血開城・戊辰戦争など、歴史上の様々な出来事がリアルタイムで村人たちに伝えられていました。それらの一部をご紹介します。

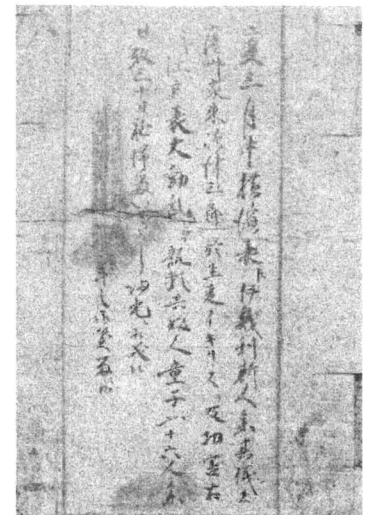
### 生麦事件の騒動が書かれた板

嘉永6(1853)年の黒船来航とそれに続く日本の開国により多くの外国人が来日しました。200年以上続いた鎖国で海外のことを知らない人たちは外国人を嫌うことも多く、日本の習慣を知らない外国人との間に多くの誤解が生まれ、それによる事件も起きました。

文久2(1862)年に横浜で起きた生麦事件もその一つで、そのときの騒動を文久3年に記した板が市内に残されていました

板には、「亥年(文久三年)の三月に横浜にイギ

亥三月中横浜表江伊義利斯人參、其儀者薩州家来島津三郎於生麦イキリスヲ及生害、右二付江戸表大動乱ニ而、親類共婦人童子ノ十六人來、日数三十日程滞留いたし帰宅相成候  
年之御笑留二候



リス人が、薩摩の島津三郎（久光）が生麦村でイギリス人を殺害した事件について（抗議に）やって来た。それで江戸では大騒ぎになったので親類の婦人・子どもが十六人避難して来て三十日ほど福岡村に留まった後で帰宅した。（戦争になると思ったが何も無かったので）この年のお笑い事に終わった。」と書かれています。

### 早船屋吉野吉五郎の活躍と苗字帯刀の許可書

このように黒船来航以来、武力衝突を含めて外国との緊張関係にあった江戸幕府は、江戸湾防衛を強化しており、ペリー来航直後から品川沖に大砲を備えた台場（砲台）の建設を進め、川越藩にも品川に陣屋を構えて台場を警固するように命じました。

川越藩はペリー来航前から三浦半島に領地を持っていたことから海岸警固の武士や物資を三浦半島方面に輸送しており、大量の人員・武器の本格的な輸送体制を整える必要に迫られていました。

当時、商業の発達により商品を大量輸送できる舟運が発達しており、川越と江戸を結ぶ新河岸川舟運も盛んに行なっていましたが、そのことがかえって船問屋どうしの争いや船問屋と船を動かす船頭との争いにつながることもあり、川越藩の統制が困難になっていました。ペリー来航の直前、嘉永6年4月、福岡村の船頭で農民だった吉五郎は、川越藩士井上清兵衛と協力して藩の船役所と御用船を設けて問屋・河岸場の統制と御用荷物の効率的な運搬を川越藩に上申しました。川越藩の荷物を、新河岸川を使って江戸まで運搬し、そこから海に出て品川の陣屋・台場まで運搬する業務を指揮して、後には多額の費用を使って御用船を建造して川越藩に献納します。

川越藩に登用された吉五郎は、これらの功績により、「吉野」の苗字を公式に使用し、太刀・脇差を持つ「苗字帯刀」と村の名主と同じ格式を持つことを許されます。それまでは農民の一人、問屋に雇われて働く船頭の一人だった吉五郎は、黒船来航をきっかけにした政治・社会の変化を背景に、伝統的な格式と財力を持つ河岸場の問屋や名主と並ぶ格式と力を持つこととなります。吉野吉五郎は、ふじみ野市域では新たな時代の到来を告げた人物の一人だったと言えます。

今回の展示では、川越藩の資料を多数所蔵している川越市立博物館・川越市立中央図書館をはじめ、埼玉県立文書館・板橋区立郷土資料館・横須賀市自然・人文博物館などの公共施設や多くの個人の方のご協力により展示を行うことができました。

ここでご紹介したのは展示した資料のほんの一部です。資料写真と解説を掲載した特別展図録は、大井郷土資料館と上福岡歴史民俗資料館で1部400円で販売しています。

郵送も承りますのでお問合せください（別途郵送料がかかります）。

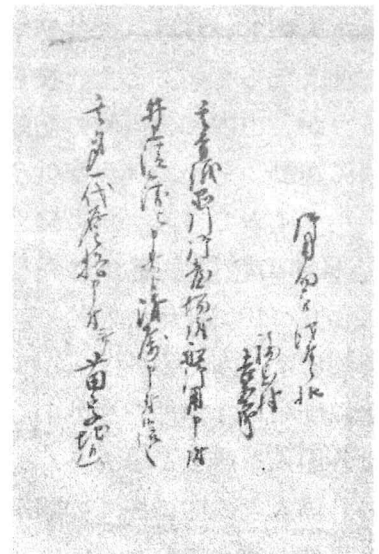


評価されて、川越藩から三人扶持と麻の上下を贈られたのです。

吉五郎は、御用船の発案や船を献上し、永く無償で運送したことが

苗字帯刀を許された吉野吉五郎  
『まんが上福岡の歴史』より

御用向被仰付候控  
福岡村吉五郎  
其方儀、品川御台場附船御用申附、井上清兵衛与申者江附属申付候、依之其身一代名主格申付并苗字地廻（帯刀差許候）



嘉永6年12月 吉野吉五郎への名主格と苗字帯刀を許可する川越藩からの文書の写し  
(ふじみ野市指定文化財 早船屋文書)

## 展示レポート1

### 巡回企画展「消えゆく戦争建築～火工廠～」

上福岡歴史民俗資料館  
大井郷土資料館

平成29年7月22日(土)～8月20日(日)  
8月26日(土)～9月18日(月)

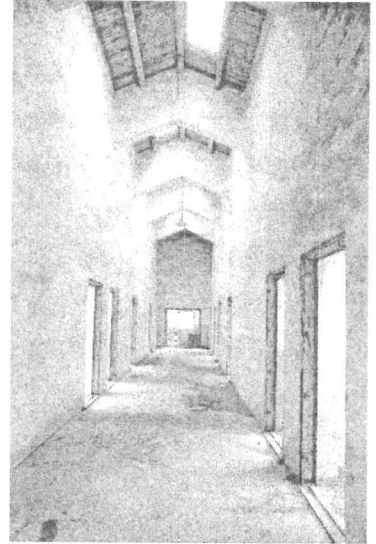
市内にあった火工廠の建造物は戦後もしばらく残っていましたが、その多くは昭和34年以降の上野台団地や誘致企業の造成で解体されました。

しかし平成16年まで上福岡市水道に利用されそのがっしりした姿が市民に親しまれていた給水塔のほかにも、市役所に隣接する日本無線株式会社の敷地には何棟かの建築物が残り倉庫等として使われていました。

平成25年に用地の売却が決まり構内の建物が解体されることになったため、日本無線の許可を受けて火工廠残存建造物についての調査を行い、このたび報告書がまとまったので紹介する展示を行いました。

右写真は銃弾の薬莖に火薬を詰め込む作業をする建物の廊下で、鉄筋コンクリート造ですが屋根や天井は木造で、万が一の爆発の際は爆風が天井を抜くことで周囲への影響を少なくするように造られていました。

火薬を扱う工夫が窺い知れる数種類の建物、また移築され残った神社の社殿や今も利用される南古谷駅への元軍用道路についても紹介しました。



爆薬填実室の廊下

## 展示レポート2

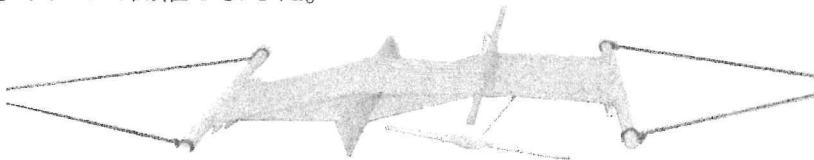
### 企画展「布～数千年の時を超えて～」

上福岡歴史民俗資料館 平成29年11月3日(金)～11月28日(日)

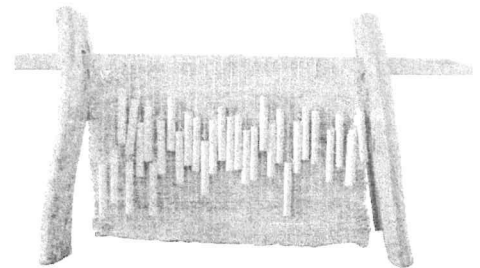
人間の生活には衣服が不可欠です。衣食住の真っ先に挙げられていることからその優先度をうかがい知ることが出来ます。衣服をつくる材料である「布」は人間のあみ出した知恵の結晶でもあります。

今回は布そのものにスポットを当て、そのもとになる繊維素材や、人が考えてきた製法「織る、編む、紡ぐ」を紹介しました。

また期間中資料館友の会はたおり部会の創立30年記念作品展もあわせて開催しました。



初期の機織「腰機（こしばた）」(復元)



原始の編み機「あんぎん」(復元)



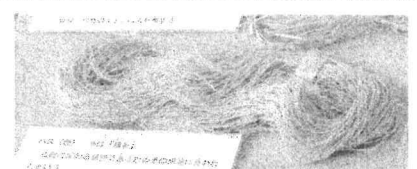
カラムシ(苧)



アサ  
(麻)



フジ  
(藤)



ハス(蓮・藕糸)

さまざまな繊維材料(名和稔子氏 蔵)

# ふじみ野市の両資料館への資料の寄贈

平成29年1月から12月まで次の方々より、各種の文化財資料を寄贈していただきました。紙上をもって厚くお礼申し上げます。

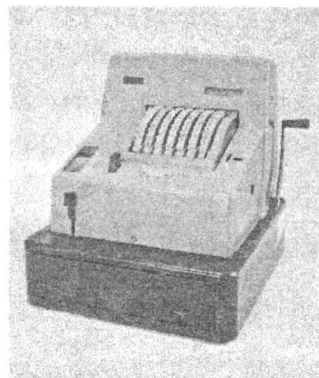
## 市立上福岡歴史民俗資料館分

3月2日	お宮参り着物	1点
	市内 土佐昌子氏	
3月2日	豆炭	2点
	陶製手榴弾破片	8点
	市内 柳澤健司氏	
5月3日	古銭	275枚
	銭箱	1点
	算盤	1点
	市内 金山 正 氏	
6月20日	文書	53点
	ハガキ	89枚
	写真	7枚
	時計	1点
	バッヂ類	計6枚
	火工廠腕章	1点
	バックル	1点
	付木	1点
	市内 粕谷正臣氏	
7月1日	ポット	1台
	市内 土屋 浩 氏	
7月4日	生葉製茶記帳他	57点
	市内 粕谷正臣氏	
8月24日	開化小学明治塵劫記	1冊
	市内 木崎正美氏	
9月20日	火鉢	1点
	木製冷蔵庫	1点
	レジスター	1点
	膳	1点
	ところてん突き	1点
	算盤	1点
	営業許可証	1点
	市内 小菅正一氏	
10月26日	ワープロ	1点
	市内 中里美子氏	

11月9日	膳	10点
	椀	10組
	造兵廠盃	1点
	木箱	1点
	市内 大島秀夫氏	
12月1日	紙布の材料	6点
	上福岡歴史民俗資料館	
	友の会はたおり部会	
12月11日	脇差	1振
	市内 大井氷川神社氏子会	



火工廠腕章



レジスター



ポット

## 市立大井郷土資料館分

2月22日	羽子板	2点
	雛壇	1点
	市内 丸山 千代子氏	
	帳場格子	1点
	長火鉢	1点
	銭箱	1点
	将棋盤	1点
	囲碁盤	1点
	市内 新井紳一郎氏	
2月24日	真言宗勤行聖典等	15点
	市内 野村久仁子氏	
4月7日	着物	1点
	市内 佐藤みち子氏	
4月8日	着物(アンサンブル)	1点
	帯	1点
	市内 比嘉洋子氏	
7月31日	浴衣	2点
	半幅帯	1点
	市内 折原喜美子氏	
7月31日	半幅帯	2点
	市内 菊口繁子氏	
8月31日	浴衣	1点
	帯	1点
	市内 西城満期子氏	
8月31日	浴衣	2点
	帯	1点
	市内 中田藤子氏	
9月27日	オーバー	1点
	脚絆	1点
	ズボン	1点
	市内 田内弘敏氏	
11月16日	お札	1点
	市内 坪田幹男氏	
11月28日	団旗	1点
	団旗用足入れポール	1点
	入間東部地区消防組合	